

平成30年度 彩の国ボランティア体験プログラム 実施報告

彩の国
ボランティア体験プログラム

参加者募集
平成31年2月末まで

**やってみたいが
きっとある!**

施設ボランティア
高齢者施設へ訪問し、一緒に唱歌を歌ったり、楽しい時間を過ごしました。

子ども施設ボランティア
児童クラブで、紙芝居をしました。子どもたちがとても喜んでくれる様子に元気をもらいました。

焼き出し体験
赤十字団の方たちと、災害時に備えて焼き出し体験を行い、みんなで試食をしました。

ボランティア体験プログラムとは?
子どもから大人まで、誰もが気軽にボランティア活動に参加できるきっかけづくりのために、市町村社会福祉協議会などがさまざまな体験プログラムを用意し、実施するプログラムです。

**みんなで学ぼう!
ふくしについて**
手話で歌を歌いました。いつもみんなで歌っている曲の手話を学び、手話がとても身近に感じられました。

埼玉県のマスコット「コロン」
埼玉県のマスコット「たいまつ」
埼玉県のマスコット「シャキたまくん」

主催 ● 社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会・市町村社会福祉協議会 他
後援 ● 埼玉県・埼玉県教育委員会
協力 ● 毎日新聞さいたま支局・神奈川さいたま放送局・FM NACK5・共同通信社さいたま支局・埼玉新聞社・産経新聞さいたま支局・時事通信社さいたま支局・テレビ・東京新聞さいたま支局・日本経済新聞社さいたま支局・毎日新聞さいたま支局・読売新聞さいたま支局

埼玉県社会福祉協議会
埼玉県ボランティア・市民活動センター
〒330-8529 さいたま市浦和区針ヶ谷 4-2-65 彩の国すこやかプラザ内

048-822-1435 **埼玉県**

詳しくは→ 埼玉県ボランティア・市民活動センターホームページへ
埼玉県 ボランティア

このチラシは共同印刷の配分を
受けて作成しています。

平成30年度彩の国ボランティア体験プログラム

1.彩の国ボランティア体験プログラムとは？

ボランティア体験プログラムは、県民にボランティア・市民活動への参加のきっかけづくりを行うためのプログラムです。

大人から子どもまで、誰もが気軽にボランティア活動に参加できるように市町村社会福祉協議会（以下、市町村社協）及び実施団体では様々な体験メニューを用意します。

体験メニューは、社会のニーズに合うよう工夫され、参加者が安全にスムーズに活動できるように、市町村社協や関係機関のボランティア担当者（コーディネーター）が、きめ細かな調整や配慮をしながら実施しています。

ボランティア担当者は、活動をより有意義なものにするために、ボランティア活動を実践していく上での心構え等を説明する事前説明会の開催や、活動を通しての感動・成果・悩みなどを仲間たちと分かち合う振り返りの会等を行っています。

なお、彩の国ボランティア体験プログラムは、シラコバト長寿社会福祉基金の運用益により実施しています。

2.本年度の特徴

今年度の参加者は38,871人で、前年度より増加しています。小中学生における福祉教育メニューを取り入れたことや、人数が多く集まるイベントを開催したこと等により増加しました。

例年、各市町村社協が身近で参加しやすく、社会のニーズに合わせたメニューを考案しています。周知についてもより多くの県民に届くよう工夫を重ね、小中学校へ積極的に働きかけることで、本事業が県内に広く定着してきています。

また、企業の協力を得たことで予算面でも、広報面でも規模を広げることができた結果、参加者が増えた例もあります。

男女比についてみると、女性の参加者が男性の参加者の2.2倍となっており、今後一層、男性が参加しやすいメニューや環境づくりが求められます。

メニューについては、各市町村社協、実施団体で合わせて2,273メニューが実施されました。子ども・保育、高齢者、障害児・者の施設でのメニューが大多数を占めていますが、東京オリンピック・パラリンピックを控え、国際関係、スポーツ関係のメニューの増加が目立ちます。

もくじ



1 実施団体一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.1～2

2 アンケート結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.3～9

(1) 参加者について

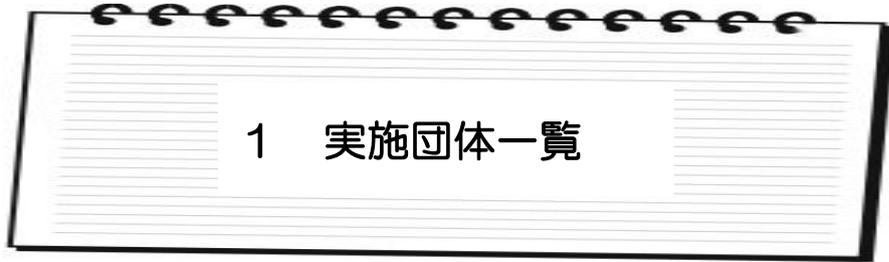
- ① 月別・所属別参加者の割合
- ② 前年度、前々年度との比較(月別・所属別参加者)
- ③ 男女別・年齢別の比較
- ④ これまでのボランティア経験
- ⑤ 企画を知った先
- ⑥ 今後ボランティア活動に参加したいか

(2) メニューについて

前年度、前々年度との比較

3 活動レポート・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.10～56

※活動レポートは各市町村社協が作成しています。



彩の国ボランティア体験プログラム等実施団体（66か所）

No.	団体名
1	さいたま市社協
2	川越市社協
3	熊谷市社協
4	川口市社協
5	行田市社協
6	秩父市社協
7	所沢市社協
8	飯能市社協
9	加須市社協
10	本庄市社協
11	東松山市社協
12	春日部市社協
13	狭山市社協
14	羽生市社協
15	鴻巣市社協
16	深谷市社協
17	上尾市社協
18	草加市社協
19	越谷市社協
20	蕨市社協
21	戸田市社協
22	入間市社協
23	朝霞市社協

No.	団体名
24	志木市社協
25	和光市社協
26	新座市社協
27	桶川市社協
28	久喜市社協
29	北本市社協
30	八潮市社協
31	富士見市社協
32	三郷市社協
33	蓮田市社協
34	坂戸市社協
35	幸手市社協
36	鶴ヶ島市社協
37	日高市社協
38	吉川市社協
39	ふじみ野市社協
40	白岡市社協
41	伊奈町社協
42	三芳町社協
43	毛呂山町社協
44	越生町社協
45	滑川町社協
46	嵐山町社協

No.	団体名
47	小川町社協
48	川島町社協
49	吉見町社協
50	鳩山町社協
51	ときがわ町社協
52	横瀬町社協
53	皆野町社協
54	長瀬町社協
55	小鹿野町社協
56	美里町社協
57	神川町社協
58	上里町社協
59	寄居町社協
60	宮代町社協
61	杉戸町社協
62	松伏町社協
63	いきいき埼玉
64	小川げんきプラザ
65	加須げんきプラザ
66	長瀬げんきプラザ

※ 市町社協62ヶ所 ・いきいき埼玉 ・ げんきプラザ3ヶ所

2 アンケート結果



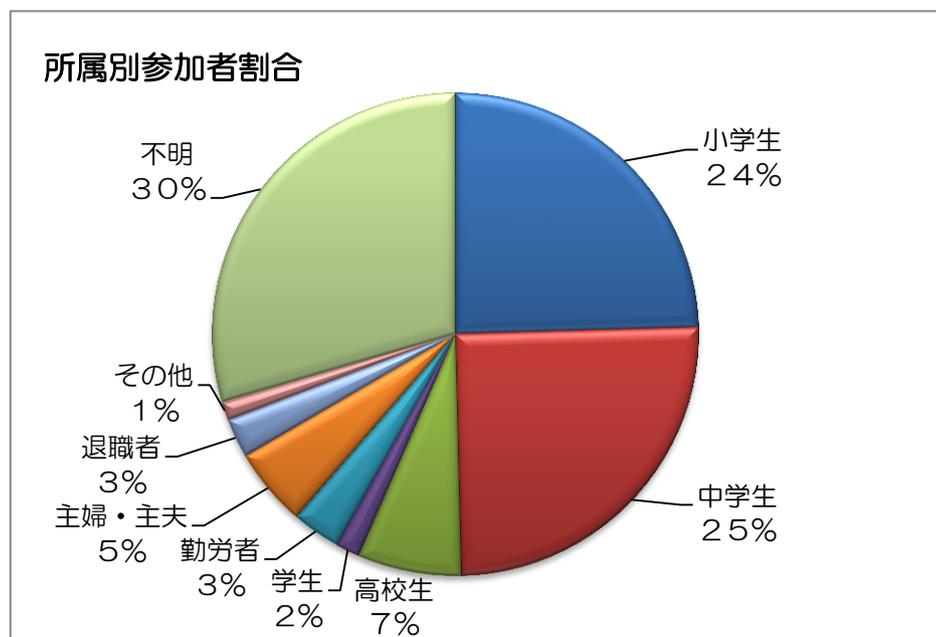
(1) 参加者について

① 月別・所属別参加者の割合

ボランティア体験学習事業は、4月から翌年2月までの11ヶ月間に実施されています。
今年度は2,273メニュー、38,871名が参加しました。

	メニュー数	小学生	中学生	高校生	学生	勤労者	主婦・主夫	退職者	その他	不明	計
4月	16	22	5	2	5	98	25	37	22	359	575
5月	33	362	11	1	8	49	87	71	15	295	899
6月	49	524	332	3	7	57	116	57	13	394	1,503
7月	835	1,245	2,774	785	89	125	195	23	70	1,012	6,318
8月	998	1,438	4,442	1,534	391	321	222	40	123	545	9,056
9月	69	1,088	752	6	25	93	294	59	39	580	2,936
10月	86	2,124	394	14	36	63	166	69	75	1,102	4,043
11月	74	1,161	355	227	27	109	384	221	19	2,566	5,069
12月	43	815	480	74	19	183	201	125	24	3,717	5,638
1月	24	314	143	14	13	72	50	49	31	296	982
2月	46	450	57	10	3	94	302	274	41	621	1,852
合計	2,273	9,543	9,745	2,670	623	1,264	2,042	1,025	472	11,487	38,871

※その他（未就学児、自営業、アルバイト、無職、家事手伝い等）



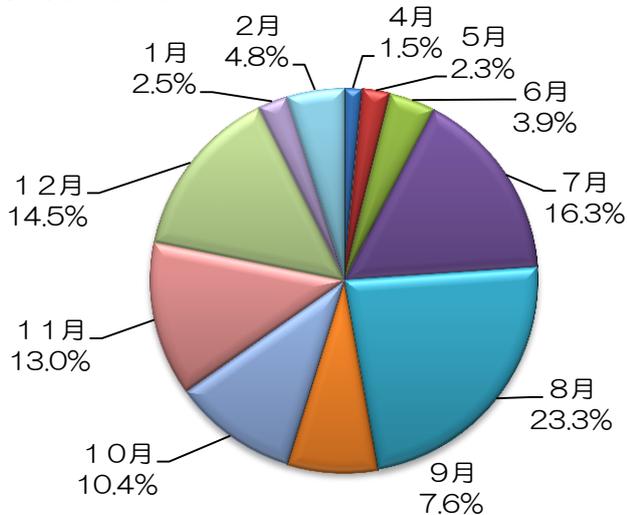
参加者の所属は、小学生、中学生、高校生で全体の半数以上を占めています。
主婦・主夫、勤労者、退職者の参加しやすいメニュー作りは課題の一つとして挙げられます。

所属が不明の参加者は、主にイベント等の参加者です。

② 前年度、前々年度との比較(月別参加者)

年度	メニュー数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	合計
28	2,521	331	552	1,022	5,317	9,148	786	1,966	3,781	1,468	984	2,996	28,351
29	2,619	302	848	874	5,543	8,591	681	1,404	3,582	1,956	627	1,169	25,577
30	2,273	575	899	1,503	6,318	9,056	2,936	4,043	5,069	5,638	982	1,852	38,871

今年度月別参加人数の割合



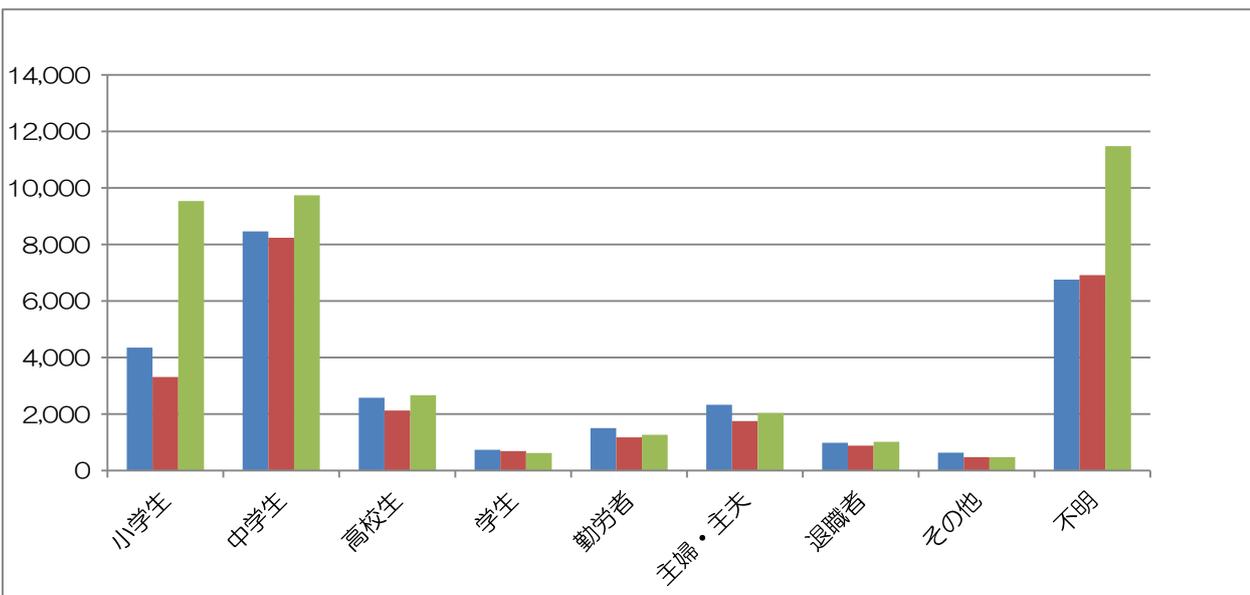
全体の参加者は、昨年度と比べて増加しています。

福祉教育等、必ずしも夏休みに限定しないメニューの設定で、7月・8月以外の月の参加者数が増えています。

一方で7月・8月は例年夏休みを利用した小学生・中学生の参加が多く、ボランティアを体験するには都合の良い時期となります。夏に向けてのメニューの企画と学校への早めの働きかけが重要となります。

前年度、前々年度との比較(所属別参加者)

年度	メニュー数	小学生	中学生	高校生	学生	勤労者	主婦・主夫	退職者	その他	不明	合計
28	2,521	4,357	8,467	2,576	732	1,505	2,332	989	637	6,756	28,351
29	2,619	3,312	8,242	2,123	696	1,177	1,752	879	476	6,920	25,577
30	2,273	9,543	9,745	2,670	623	1,264	2,042	1,025	472	11,487	38,871



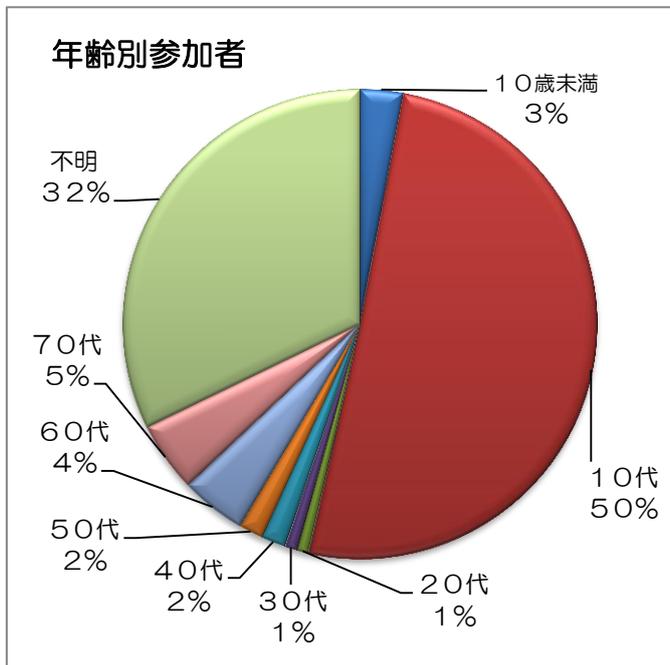
福祉教育メニューを取り入れたことや、学校に積極的に働きかけたことにより、小学生・中学生が増えました。

また、主婦・主夫、退職者層は微増しており、主婦・主夫や退職者層が参加しやすいメニュー作りや、広報の工夫の効果が表れているといえます。

一方で所属不明の参加者には、イベント等の参加者が含まれます。これは、地域のイベント等があれば参加する、という福祉に関心を持っている人が増えていることが伺えます。また、イベント開催に企業の協力を得たことで参加者が増えた例もあります。

③ 男女別・年齢別の比較

	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	不明	合計
男性	391	4,293	101	76	100	113	430	611	374	6,489
女性	720	8,774	210	209	531	494	1,271	1,223	994	14,426
不明	27	6,579	2	36	29	38	34	51	11,160	17,956
合計	1,138	19,646	313	321	660	645	1,735	1,885	12,528	38,871



今年度の参加者は、10代が全体の半数を占めています。若年層が夏休み等を利用することで、参加しやすい環境があると思われます。

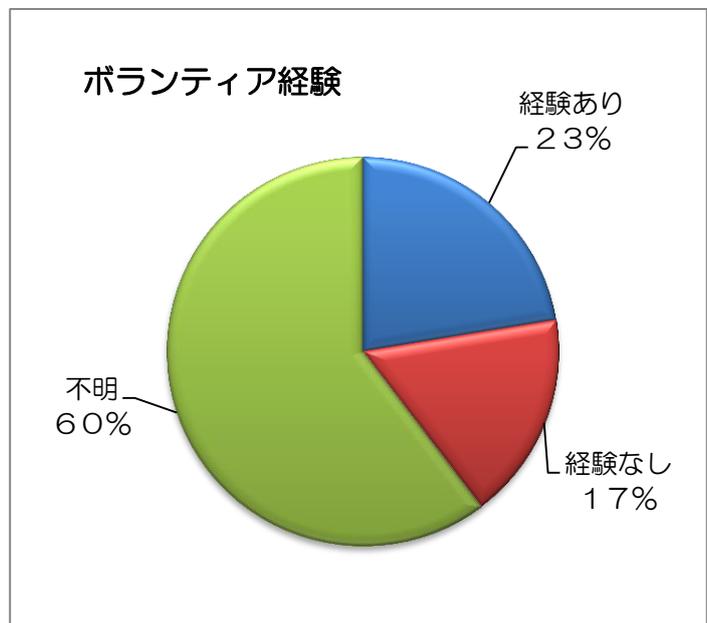
また、定年後のシニア世代など、時間に余裕があることも参加しやすい要因のひとつと思われます。気軽に参加できるメニューも多数あり、実際のボランティア活動を意識した参加者も増えていきます。

また、男女別にみると、男性は6,489名、女性は14,426名で、女性が男性のおよそ2.2倍の参加となっています。男性の参加者が伸び悩んでいますので、今後一層、男性の参加しやすいメニューや環境づくりが求められます。

④ これまでのボランティア経験

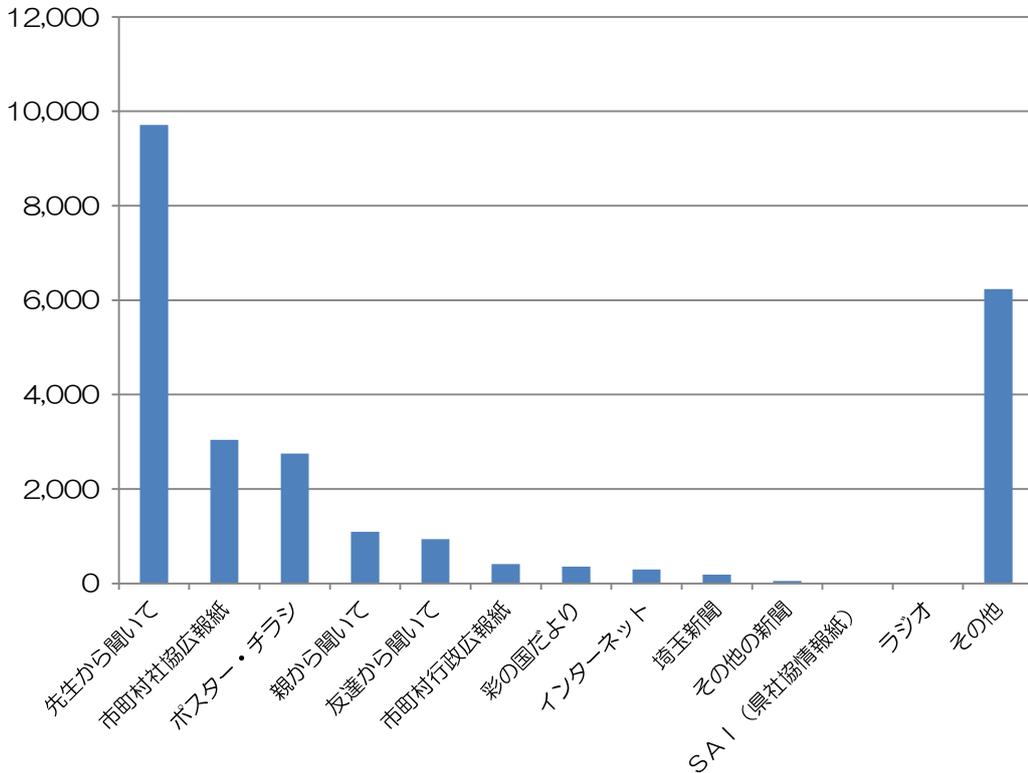
経験あり	経験なし	不明	合計
8,705	6,721	23,445	38,871

参加者の中でおよそ4人に1人が初めて参加しています。ボランティア活動の入り口として活用されていることがわかります。



⑤ 企画を知った先

先生から聞いて	市町村社協広報紙	ポスター・チラシ	親から聞いて	友達から聞いて	市町村行政広報紙	彩の国だより	インターネット	埼玉新聞	その他の新聞	SAI（県社協情報紙）	ラジオ	その他	合計
9,711	3,040	2,751	1,095	940	408	354	294	183	49	10	2	6,234	25,071



※「その他」は、①社協からの通知や職員に聞いて、②家族や知人から聞いて、③昨年も参加した等の回答が多くみられました。

埼玉県教育委員会のご協力により学校の先生からの声掛けによる参加者が多数を占めています。また、市町村社協が直接学校に出向き、説明会を設けたり等の広報活動が定着してきています。日頃から市町村社協と学校のつながりが大切であることがわかります。

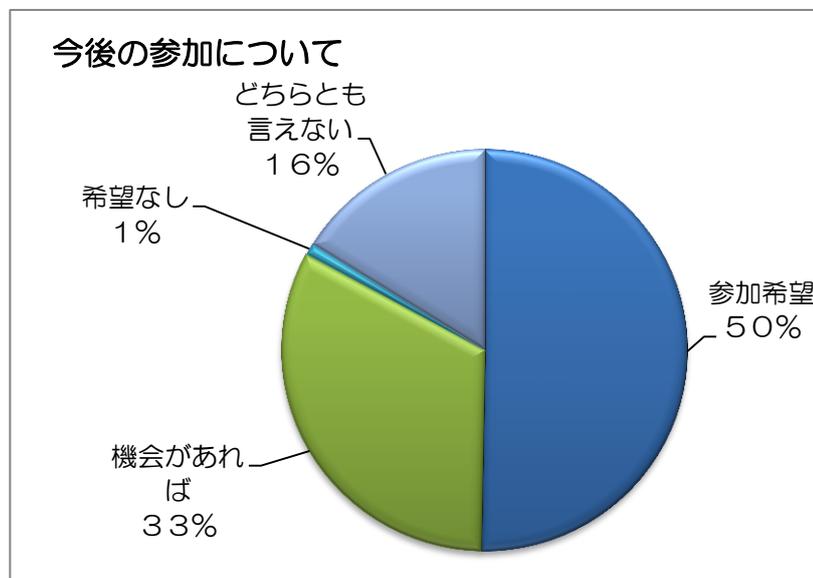
続いて、広報紙、ポスター・チラシも、目を引くものや、掲示・配布の仕方を工夫することで効果があることがわかります。

また、「その他」として社協の窓口や職員に聞いてという回答が多いことから、社協職員による声掛けの効果が大きいことがわかります。声掛けの手段は直接の声掛け以外には登録ボランティアへのメール配信やダイレクトメール等です。また、口コミやリピーターも多いことから、参加してよかったと思われたことが次の参加を促進させることにつながったようです。

「その他」の中には、回覧板や民生委員の会議等という回答もあり、関係機関との連携は欠かせないものとなっています。

⑥ 今後ボランティア活動に参加したいか

参加希望	機会があれば	希望なし	どちらとも言えない	合計
6,882	4,460	131	2,210	13,683



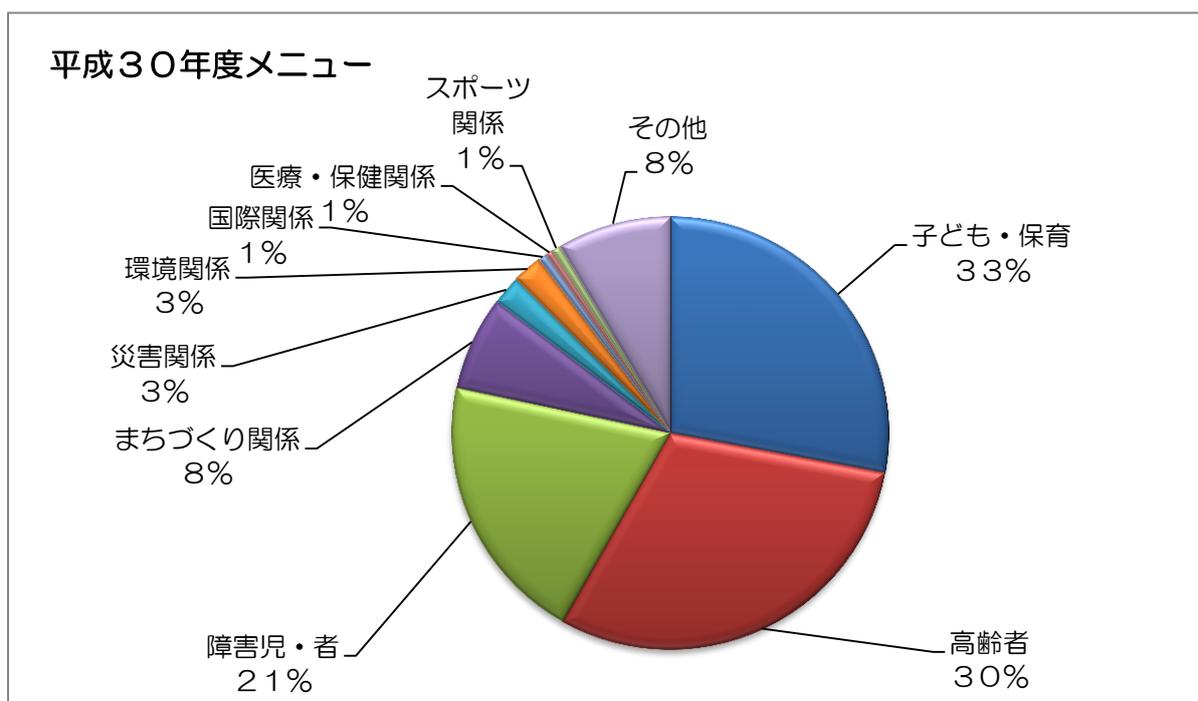
今後の参加希望については、「参加希望」と「機会があれば」をあわせると、83%の人が参加を希望しており、関心が高いことがわかります。参加してよかったと思っている方への、その後の働きかけ方に工夫が求められます。

一方で17%の方が「どちらとも言えない」「希望なし」と回答しており、きっかけづくりとしてのメニュー企画の難しさがうかがえます。

(2) メニューについて

前年度、前々年度との比較

	子ども・保育	高齢者	障害児・者	まちづくり関係	災害関係	環境関係	国際関係	医療・保健関係	スポーツ関係	その他	合計
28	807	705	532	215	53	61	17	14	14	103	2,521
29	732	792	528	184	57	57	17	14	17	221	2,619
30	689	652	467	197	41	44	26	23	23	111	2,273



メニューは、子ども・保育、高齢者、障害児・者の施設でのメニューが多く全体の80%を占めています。

一方、割合としては少ないですが、国際関係、医療・保健関係、スポーツ関係のメニューが増えています。東京オリンピック・パラリンピックを控え、社会のニーズに沿ったメニューを設定したことの成果といえます。

また、「その他」の内容は、どのカテゴリーにも入りにくいボランティア入門講座や、高齢者・障害者・子ども関係を複合的に含んだメニューとなっています。実際のボランティア活動を意識した参加者が、気軽に参加できるメニューも多数あります。